

第6回会津美里町総合計画審議会 開催記録（会議内容の要点記録）

日時 平成27年2月25日（水）午前10時～午前11時30分

場所 会津美里町役場高田庁舎 第3会議室

出席委員：石光真委員 大竹勉委員 白井栄一委員 鶴賀イチ委員 千葉正秀委員
新山諭委員 杉原由美委員 斎藤信子委員 須田保子委員 櫻井宏信委員
武藤裕一委員 横谷光子委員 上杉述史委員
全14名中13名出席

欠席委員：遠藤秀一委員

事務局：まちづくり政策課長 佐々木（宏） 係長 渡部雄二 担当 鈴木英哉

同席コンサルタント：（株）青島裕之建築設計室 青島（裕）、樋口

○開会 大竹副会長

○会長あいさつ

○議事

1. 第4回町民ワークショップの結果について

（コンサルタントより第4回WSの結果概要について説明）

委員 ワークショップのなかで「空き家」が話題となっていたようだが、「廃校等の活用」などの意見は無かったのか。

事務局 4回目では具体的な話は少なかったが、1回から3回のなかではいろいろな意見があった。

委員 空き家対策について、各行政区の集会所としての活用はどうか。

2. 施策名称の一部変更について

（事務局から施策名称変更案等について説明）

会長 各分野である程度推進してきたものについて、今後充実させていくとの提案で

すが、意見があればお願いしたい。

委員 充実、推進、振興といろいろあるが、使い分けの定義はどうなのか。共通の認識が必要ではないか。

事務局 推進は現在ない、足りないところを切り開いていくイメージであり、充実は今あるものを膨らましていくイメージで理解いただきたい。

会長 他に意見等なければ、この変更のとおりとしたい。

3. 基本構想（案）について

（基本構想（案）について事務局より説明）

委員 ところどころに町民参加はうたわれているが、町民と一体となってまちづくりをしていく部分の表現が必要ではないか。また、一部の行政用語は難しいので、注釈をつけるべき（コーホート要因法）。もう一点として、土地利用の部分は何らかの意図があって作成しているのか。

事務局 一点目の町民参加については、盛り込んでいく方向で文面については検討させてほしい。2点目の行政用語については、ご意見のとおり注釈で対応したい。3点目の土地利用については、現在の土地利用をあらためて表現したものであり、これを基本とした土地利用とすべき旨を記載しているものです。

委員 行政用語の件だが、人口のところの「合計特殊出生率」もわかりにくい。

事務局 先ほどと同様に注釈をつけたい。

委員 行政経営と行政運営と2種類使われているが、意味の違いは。

事務局 通常の町の運営については、「行政運営」となるが、評価の実施、評価結果に基づく運営を「行政経営」と位置づけておりますが、「行政経営」にも注釈をつけて対応したい。

委員 「まちの将来像」（将来像）と「将来のまちの姿」（土地利用）が同じような言葉で、区別がつきにくい。

事務局 「将来のまちの姿」は「土地利用構想」に変更したい。

委員 計画期間の表現が重複しており、わかりづらい。

事務局 年数の表現は片方とし、図を挿入してわかりやすく表現したい。

委員 全体的に第2次総合計画と大差がない。重点プロジェクトの人口減少対策はあるがそれだけでいいのか。産業づくりが必要なのではないか。

会長 今回の基本構想はあくまで構想なので、前回とくらべて大きく差が出るものではない。

事務局 第2次総合計画では27施策のうち6施策を重点施策として位置づけしていたが、震災等もあり、毎年重点化していくことが難しい面もあった。今回の第3次

総合計画では、政策・施策体系の外側に重点プロジェクトを設け、柔軟な対応を可能としている。さらに、産業づくりについては、「元気づくりプロジェクト（人口減少対策）」に包括されるようなつくりとなっている。また、表記のとおり「産業の場の創出について」は広域的にも取り組む必要性があると考えております。

委員 広域連携といっても、会津若松市に企業が来ても、従業員は会津若松市へ住むことになれば、会津美里町にメリットはないのではないかと。企業も美里へ呼び込むべきではないかと。

委員 企業が会津若松市でも、住環境がよければ人は会津美里町に住んでくれると思う。企業も美里町へがベストだが、魅力的な環境づくりさえできれば、人を呼び込むことは可能だと思う。

会長 産業の件については、重点プロジェクトのなかで表現しており、重点化は図られていると思う。第2次総合計画との相違点についても、事務局説明のとおり。ただし、産業については民間企業が相手となるので、一番重要だが一番難しい部分と思う。

委員 いろいろ意見が出て、その修正は必要と思うが、第3次総合計画の基本構想としては、概ね良いと思う。ただし、人口減少については推計結果のとおり厳しいことが予想されるので、今後の具体的な取り組みでは、ピンポイントで強力な取り組みを実施し、減少に歯止めをかけてほしい。

会長 「本町をとりまく状況の変化」のなかで、③の題のみ「取り組み」になっているので「都市部への一極集中」修正したほうが良い。

委員 重点プロジェクトの「里づくりプロジェクト」と土地利用の「里山・山林ゾーン」の内容が若干違うが、どういう意図なのか。

事務局 重点プロジェクトとしてこれから取り組んでいく内容を表現しているものと、あくまで土地利用の「ゾーン」としてすべきこと、の違いとして理解いただきたい。

会長 いろいろ意見が出たが、構想の議論は今回だけなのか。

事務局 今回初めて示したものでもありますので、次回も修正意見等あればいただきたい。

4. その他

事務局より

次回審議会日程は平成27年3月25日（水）10時から、開催場所が決定次第文書にて通知する。

○閉会 大竹副会長